

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02571

研究課題名（和文）東アジア地域における家庭教育と規範的文化の継承に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International Comparative Research about Home Education and Transmission of Normative Culture in East Asian Countries

研究代表者

小林 敦子（Kobayashi, Atsuko）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90195769

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：東アジア地域（日本、中国、韓国、台湾）において、礼儀正しさや正直、勤勉といった倫理規範が、祖父母世代から親世代、子世代、さらに次の世代へと世代を超えて継承されている。家庭教育の危機といった言説は当てはまらず、むしろ社会の問題を家庭問題に帰結させるような家庭教育言説がある。「教育する家族」の登場といった育児戦略の変容が、東アジア地域の共通項として生じている。ただし出現の仕方にタイムラグがある。学歴重視の傾向から、子どもの幸せが大切といった個人的幸福を企図する志向性が、近年の若い世代で強まっている（再生産戦略の個人化）。とりわけ日本では、こうした傾向が顕著であるが、他の地域においても出現している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、東アジア地域の家庭教育における規範的文化の継承と断絶について検証を試みている。研究の結果、一般的に家庭のしつけといわれている倫理規範、あるいは社会情動的スキルが、各地域の家庭において世代を超えて継承されていることを検証した。また、育児戦略の変容が、東アジア地域において、タイムラグがありながらも共通して出現していること、さらに、学歴よりも子どもの生活の充実や幸せが大切といった個人的幸福を企図する再生産戦略の個人化の傾向が、近年の若い世代で強まっていることも論じた。教育の危機が叫ばれている中で、本研究は東アジア社会における家庭教育の新しいオルタナティブなモデルを提起するものと言えよう。

研究成果の概要（英文）：In the East Asian region, including Japan, China, South Korea and Taiwan, ethical norms such as politeness, honesty and hard work are passed down from one generation to the next, from grandparents to parents to children and then to the next generation. The discourse of a crisis in family education does not apply. Rather, there is a discourse of family education that attributes problems in society to problems in the family. The transformation of parenting strategies, such as the emergence of the 'educating family', is a common thread throughout the East Asian region. However, there is a time lag in its emergence. In recent years, the younger generation has become increasingly focused on personal happiness, placing less emphasis on children's academic performance and more on children's well-being and happiness in life. This can be described as the individualisation of reproductive strategies. This trend is particularly pronounced in Japan, but has also emerged in other East Asian countries.

研究分野：教育社会学

キーワード：家庭教育 倫理規範 東アジア 子どもの社会化 しつけ ライフストーリー法 年中行事 規範的文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、家庭教育に関する関心が高まっている。それは、日本だけでなく、中国を含め東アジア地域においても同様である。従来の家庭教育に関する研究においては、認知的な能力の形成、あるいは育児戦略や階層間の格差について多くの研究が積み重ねられてきた。しかし、家庭教育における規範的文化の継承と断絶については研究の蓄積が少ない。

(2) 近年、グローバル化に伴う社会的な格差や教育の危機が深刻化する中で、単に認知的な能力(知識の習得)だけではなく、社会情動的スキルに注目が集まっている。しかしながら、社会情動的スキル、特に家庭教育における伝達・育成に関しては研究が不十分である。

(3) ベネッセが実施した「幼児の生活アンケート・東アジア5都市調査」(東京、ソウル、北京、上海、台北、2010年)、「幼児期の家庭教育国際調査」(日本、中国、インドネシア、フィンランド、2017年)は、示唆に富む調査であるが、子育てに関する概括的データの提示に留まっており、本格的な分析が待たれている段階である。

### 2. 研究の目的

本研究は、文化伝達による子どもの社会化の諸相について、規範的文化の継承と断絶(断層)に焦点を当て、東アジア地域(日本、中国、韓国、台湾)の家族と家庭教育を比較しながら検証するものである。文化とは、一般に認知的文化(知識、技能)と規範的文化(価値、信念、規範、態度)とに分けることができるが、本研究においては、主に後者に重点を置き、家庭における子どもの社会化に不可欠な規範的文化と社会情動的スキルの伝達の諸相を国際比較の観点から考察する。

祖父母世代(80代以上)、父母世代(50代)、子世代(20代)の3世代が生きた1930年代から2010年代に至る約80年間を俯瞰しながら、近代化、グローバル化、新自由主義化といった社会変容が、子どもの社会化、家庭教育にいかに関与を与え、具体的なしつけ作用に立ち現れているかを教育学、教育社会学の視点から分析する

また主流文化だけでなく、エスニック・マイノリティ(中国少数民族、韓国の中国朝鮮族等の移住者、台湾原住民)の家庭も取り上げることで、東アジアの文化変容の多面性を浮き彫りにする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究の手法

ライフストーリー法を用いて、各国・地域の家庭における祖父母世代(80代以上、1930年代~40年代生まれ)、父母世代(50代、1960年代~70年代生まれ)、子世代(20代、1990年代生まれ)の3世代インタビューを行う。インタビューにおいては、主に家庭教育の担い手である女性3世代が対象。ライフストーリー・インタビューという質的調査の方法を用いるのは、対象に多くのマイノリティが含まれており、かつ文化伝達をよりリアルなものとして把握するためである。

家庭教育に関する質問票調査を実施。

(2) 調査の主な対象： 日本(都市:東京、農村:宮城) 中国(漢族、少数民族) 韓国(韓国人、中国朝鮮族等移住者) 台湾(本省人、外省人、原住民)。主な調査地点：日本(東京、

宮城)、中国(北京、延吉等)、韓国(ソウル)、台湾(台北、新竹)。

### (3) 調査の実施

2019年度

1) 質問票の作成(高橋均氏協力)。東京都荒川区、宮城県登米市などでインタビュー及び質問票調査を実施。2)台湾を訪問調査(小林敦子、天童睦子、一見真理子)。訪問先機関は、教育部、新北市家庭教育センター、光宝文教基金会。その他、台北教育大学、台湾師範大学、台北市教育局、台湾成人及終身教育学会へのインタビューも実施。また海外研究協力者の協力を得てのライフストーリー・インタビュー調査を実施(台湾6家族)台湾での調査研究によって、家庭教育に関する国際的な共同研究のネットワークを形成した(実践大学・朱郁分氏、中国文化大学・林雅音氏)。3)北京師範大学において、研究の打ち合わせを実施(小林敦子)。中国でインタビュー・データを収集(13家族、少数民族家庭を含む)

2020年度

1)東京都荒川区の小学校において、家庭教育に関する質問票調査を実施(小学校1~2年の父母対象、回収数約200サンプル)。2)新型コロナウイルス感染症の広がりにより対面式でのインタビューが難しいことから、対面式での調査項目を元に質問票を作成し、郵送により送付・回収(回収サンプル数約200)。回収した質問票に基づきながら、さらに電話・メールインタビューを実施。3)台湾に関する調査(小林敦子)。追加調査をラインで実施したほか、中国文化大学の林雅音氏から家庭教育関係の資料提供を受けた。4)中国に関する調査。研究協力者の協力を得て、中国でインタビュー・データを収集(12家族、少数民族家庭を含む)。5)韓国における調査。研究協力者の協力を得て、質問票調査(オンライン調査)+インタビュー調査を実施。

2021年度

1)家庭教育に関するインタビュー調査(東京都荒川区、宮城県仙台市)。2)台湾:追加のインタビュー調査を実施。3)中国:研究協力者の協力を得て、インタビュー・データを収集(12家族、少数民族家庭を含む)。3)韓国:研究協力者の協力を得て、調査を実施。

2022年度

1)家庭教育に関するインタビュー調査を実施(北杜市、札幌市)。2)台湾に関する調査:生涯学習・家庭教育研究関係者との交流・意見交換、教育部訪問、生涯学習関連研修会への参加。3)中国に関する調査:研究協力者の協力を得て、中国でインタビュー・データを収集(12家族、少数民族家庭を含む)。4)韓国における調査:研究協力者の協力を得て、調査を実施(オンライン調査:サンプル数累計110、インタビュー調査:累計10家族)。

2023年度

2019年度から2022年度に実施した調査の分析及び発表に注力した。

### (4) 調査結果の分析

質問票調査 SPSSによる分析(高橋均氏協力)

質的データ KJ法

## 4. 研究成果

(1)日本の場合、約束を守る、嘘をつかない、物を大切にするといった倫理規範が祖父母世代、親世代、子世代と世代を超えて継承されている。また、東アジアの各地域においても、礼儀正しさや正直、勤勉といった倫理規範が、祖父母世代から親世代、子世代、さらに次の世代

へと世代を超えて継承されている。近年、言われるようになってきている家庭教育の危機といった言説は当てはまらず、むしろ社会の側の問題を家庭問題に帰結させるような、家庭教育言説がある。

(2)「教育する家族」の登場といった育児戦略の変容が、東アジア地域の共通項として生じている。ただし、現れ方にタイムラグがある。たとえば日本の場合は、高度経済成長時期に出現し、中国の場合には、文化大革命後の大学入試制度の復活以降のことである。

(3) 学歴重視の傾向から、子どもの生活の充実や幸せが大切といった個人的幸福を企図する志向性が、近年の若い世代で強まっている(再生産戦略の個人化)。また、育児戦略から、包括的エンパワーメント(社会的、経済的、健康的、文化的に良い) wellbeing モデルへの傾向も見られる。とりわけ日本では、こうした傾向が顕著であるが、中国、韓国、台湾においても出現している。

(4) 正月(旧正月)といった年中行事において子どもが役割を担うことは、家族の世代間での規範的文化の継承や子どもの社会化に影響を与える。ただし、年中行事は家族の行事から個人の行事へと移行する傾向にあり、とりわけ日本ではその傾向が特徴的である(一例として、お盆よりも誕生日が重視される傾向)。

(5) 東アジア共通の現象として、男の子らしく、女の子らしく、あるいは女性に学校への就学や進学を認めないという風潮は、祖母世代で顕著である。子世代になるにつれて、男の子らしく、女の子らしくというジェンダー規範が弱まっている。女性の進学熱も盛んである。

ただし、近年、中国における専業主婦層の登場、あるいは政府による専業主婦の推奨に見られるように、東アジア地域においてジェンダー秩序の再編の動きも生じている。また、韓国のように進学競争を勝ち抜いても、女性の場合、必ずしも収入の高い仕事につけるわけではない。条件の良い結婚相手を見つけて結婚することを親から求められるようになる。

(6) 家庭における教育においては、兄弟・姉妹の存在が大きい。とりわけ祖父母世代では影響があり、兄、姉が弟、妹の養育に関わったり経済的に支援をしたりする場合もある。あるいは兄弟・姉妹の人間関係から、協働の重要性、感情のコントロールを学び、さらに兄・姉がロールモデルとなっている。

(7) 本研究においては、子どもの人間形成において、社会経済的条件にかかわらず家族が保有している「文化的資源」(価値、規範、人的ネットワーク、相互作用)の影響と重要性が浮かびあがってきたことを論じた。社会的平等を実現する上で、行政が重要な役割を果たすことについても言及した。

(8) 家族(兄弟姉妹)や地域の文化的資源が輻輳する関係の中で、子どもは育つ。しかしながら、少子高齢化が進む現代社会においては、必ずしもそうした状況にはない。今後、どのような環境の中で、子どもを育てていくのか、子どもの wellbeing をいかに実現していくかは、東アジア地域が共通して直面する大きな課題である。

(9) 研究成果の発表については、一覧表に記載があるが、国際的な発表として、以下を挙げておきたい。

国際ジャーナル発表 : Atsuko Shimbo ,Mutsuko Tendo, Creating cultural resources and reading: A case study of a public library and invisible parental pedagogy in Tokyo, *International Journal of Educational Research*,113,DOI 10.1016/j.ijer.2022.101970

国際シンポジウム発表 : Atsuko Shimbo ,Mutsuko Tendo, Human, capital discourse and cultural resources: A case study of family education in Japan, the XX ISA World Congress

of Sociology , RC04(74) , 28 June 2023 , @Melbourne。分科会 74 のテーマ： Neoliberalism, Human Capital Discourse and Education Practice。発表を行った分科会では、Anthony DWORKIN ( Sociology, University of Houston ) や、中国、台湾、オーストラリアの教育社会学者も発表を行った。本研究は東アジア地域における家庭教育及び家庭における規範的文化の継承に関して、新しい知見を与え得るものとして注目された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 71
2. 論文標題 大興安嶺を越えての逃避行 大場昭蔵さんの語る満洲引き揚げ体験	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学研究	6. 最初と最後の頁 45-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Shimbo	4. 巻 37
2. 論文標題 Current Status and Issues of Research on the History of Asian Education in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田教育評論	6. 最初と最後の頁 195-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 33
2. 論文標題 近代化による家族変動と子ども観の変容 清末から民国期に焦点をあてて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimbo Atsuko, Tendo Mutsuko	4. 巻 113
2. 論文標題 Creating cultural resources and reading: A case study of a public library and invisible parental pedagogy in Tokyo	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 101970 ~ 101970
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijer.2022.101970	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 70
2. 論文標題 近代日本の家族におけるしつけの変遷 -1930年代から40年代生まれの女性の検証-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学研究：人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shimbo, Atsuko	4. 巻 32
2. 論文標題 Picture Books and Children's Development: Japanese Trends and Practices	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 4
2. 論文標題 子どもの貧困と基礎自治体の施策 東京都荒川区における地域団体との協働をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学習社会研究	6. 最初と最後の頁 146-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shimbo, Atsuko	4. 巻 36
2. 論文標題 Secondary Education for Girls under the Japanese Occupation: Focusing on the Mongols in Manchukuo	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田教育評論	6. 最初と最後の頁 87-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 116
2. 論文標題 關於公共圖書館的新式功能性及空間性作用研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 終身教育（福建省教育庁）	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tendo Mutsuko, Takahashi Hitoshi	4. 巻 110
2. 論文標題 Family education and symbolic control in neoliberal conditions: Japanese childrearing media analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 101860 ~ 101860
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ijer.2021.101860	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 645
2. 論文標題 日本当代児童図書館の状況与経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 絵本与教育	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 103
2. 論文標題 社区貢献型、代際交流型高齢者教育 以東京荒川区為例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 終身教育	6. 最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 新保敦子	4. 巻 5
2. 論文標題 共同成長と親子陪伴 -来自産后的抑郁思考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第5届未成人思想道德建設国際研究会	6. 最初と最後の頁 27-30,40-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 31
2. 論文標題 台湾における家庭教育施策の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 27-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新保敦子	4. 巻 69
2. 論文標題 ある電気技師のあゆみ 電機学校の校外生制度と社会的上昇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術研究 人文科学・社会科学編	6. 最初と最後の頁 37-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天童睦子	4. 巻 1
2. 論文標題 "Children's Futures and Community Studies Revisited: Japanese Cases of Children's Lives" (英文)「子どもの未来と地域再考: 日本からみえること」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 <a href="http://wac-lab.com/culture_04.html">http://wac-lab.com/culture_04.html</a>	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ingrid Pramling Samuelsson著 天童睦子訳	4. 巻 1
2. 論文標題 グローバル市民になること 子ども中心の持続可能な開発のための就学前教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020 日本 スウェーデン国際シンポジウム報告書 地域子ども学と持続可能性の視点	6. 最初と最後の頁 28-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天童睦子	4. 巻 53
2. 論文標題 『女性と教育』の近代 女子大学の史的変遷をふまえて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教文化研究所研究年報	6. 最初と最後の頁 5-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 Atsuko Shimbo
2. 発表標題 Current situation and challenges of ICT education in Japan from a gender perspective
3. 学会等名 Online International Symposium: Digital Girls Girls' Engagement in ICT in the Asia-Pacific Context /UNESCO (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 關於公共図書館の新式機能性及空間性作用研究
3. 学会等名 第二屆・一带一路 < 中国人文与人材中国 > 國際論壇 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 日本如何把老年教育推向基層社區：聚焦東京都荒川区的事例
3. 学会等名 第九屆社會治理創新智庫論壇暨福建省全民終身教育促進會第三屆會員大會第一次會議（招待講演）（國際學會）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsuko Shimbo
2. 発表標題 Child Development and Reading: Building Cities through Picture Books
3. 学会等名 2022 Soong Ching Ling International Forum on Children's Development（招待講演）（國際學會）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 日本終身教育立法與高齡教育政策
3. 学会等名 2022第18屆海峽兩岸終身學習峰會（招待講演）（國際學會）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天童睦子
2. 発表標題 地域子ども学と女性視点 東北と北欧の連環を視野に
3. 学会等名 「地域における子育て支援：学術的取り組み」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsuko Shimbo
2. 発表標題 Japanese Trends in History of Education Current Status and Issues of Research on the History of Asian Education in Japan: Focusing on the Trend of the Asian Section in Japan Society for the Historical Studies of Education
3. 学会等名 ISCHE 43 Histories of Educational Technologies: Cultural and Social Dimensions of Pedagogical Objects (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 21世紀社会变革下的生活主体形成 以家庭科教育為焦点
3. 学会等名 首届全球兒童發展与家庭教育論壇 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tendo, Mutsuko, Shimbo, Atsuko
2. 発表標題 Parenting and family education in Japan: Towards a comparative study of cultural transmission in East Asia
3. 学会等名 The 27th Taiwan Forum on Sociology of Education Authorized as a 2021 Midterm Conference of RC04, ISA Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 日本の兒童福利 从兒童貧困、保護未成年人、防止虐待兒童对策等方面討論
3. 学会等名 2021年宋慶齡兒童發展國際論壇 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shimbo, Atsuko
2. 発表標題 東アジア地域における規範的文化の伝達：世代間比較をふまえて The Inheritance of Normative Culture in Families in East Asia: Based on Comparative Research of Generations
3. 学会等名 東アジア地域における家庭教育と規範的文化の伝達の諸相 各地域のケーススタディをふまえて (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tendo, Mutsuko
2. 発表標題 日本の家庭教育としつけ戦略の現在：東京・宮城のフィールド調査を中心に」
3. 学会等名 東アジア地域における家庭教育と規範的文化の伝達の諸相 各地域のケーススタディをふまえて (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 台湾における家庭教育
3. 学会等名 東アジアの家庭教育と子育て支援 日本の子育てを相対化する
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Atsuko Shimbo (新保敦子)
2. 発表標題 Disaster and Education (災害と教育)
3. 学会等名 北京師範地球連線活動 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 天童睦子
2. 発表標題 子育ての国際比較について 北欧視察と国際シンポジウムから
3. 学会等名 子育て研究ワークショップ・公開研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 一見真理子
2. 発表標題 指定討論
3. 学会等名 日本 スウェーデン国際シンポジウム 「地域子ども学と持続可能性の視点 - 持続可能な開発の視点を取り入れた就学前教育」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 共同成長和親子陪伴 -来自産后的抑郁思考
3. 学会等名 第5届未成年入思想道德建設国際研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 日, 美, 英当代儿童図書館的視角
3. 学会等名 第4届小学繪本本課程与教学研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 絵本对健全人格的作用和影响
3. 学会等名 絵本閱讀与教学國際前沿論壇系列課程（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新保敦子
2. 発表標題 開展的科研課題
3. 学会等名 中日家庭教育學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 經濟協力開發機構（OECD）【著】 一見 真理子【翻訳】	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 OECDスターティングストロング白書	

1. 著者名 幼児教育史学会（監修），小玉亮子（編集），一見真理子（編集）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 392
3. 書名 幼児教育史研究の新地平：幼児教育の現代史（下巻）	

1. 著者名 天童睦子・足立智昭編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 212
3. 書名 地域子ども学をつくる 災害・持続可能性・北欧の視点	

1. 著者名 新保敦子他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 早稲田大学MDコーナー	5. 総ページ数 114
3. 書名 東アジア地域における家庭教育と 規範的文化の継承に関する国際比較研究 研究成果報告書	

1. 著者名 天童睦子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 104
3. 書名 女性のエンパワメントと教育の未来	

1. 著者名 新保敦子(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 早稲田大学ライフストーリー研究会	5. 総ページ数 63
3. 書名 成人教育研究におけるライフストーリー分析 No.11	



1. 著者名 幼児教育史学会（監修） 一見真理子（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 萌文書林	5. 総ページ数 344
3. 書名 幼児教育史研究の新地平：近世・近代の子育てと幼児教育（上巻）	

1. 著者名 アンドレアス・シュライヒャー著、経済協力開発機構（OECD）編、一見真理子、星三和子訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 136
3. 書名 デジタル時代に向けた幼児教育・保育	

1. 著者名 朱分郁・林雅音（新保敦子編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 MDセンター	5. 総ページ数 50
3. 書名 家庭教育国際ワークショップ 東アジア地域における家庭教育 規範的文化の継承に焦点をあてて	

1. 著者名 新保敦子編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 MDセンター	5. 総ページ数 155
3. 書名 成人教育研究におけるライフストーリー分析NO.10	

1. 著者名 一見真理子 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 710
3. 書名 変容する世界と日本のオルタナティブ教育: 生を優先する多様性の方へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>宮城学院女子大学・若手研究者を中心とする「女性・子どもと地域」研究ネットワーク  <a href="http://wac-lab.com/culture.html">http://wac-lab.com/culture.html</a>          宮城学院女子大学の研究者を中心とする「女性・子どもと地域」研究ネットワーク (WAC)  <a href="http://wac-lab.com/culture.html">http://wac-lab.com/culture.html</a>          「東アジア地域における家庭教育と規範的文化の継承に関する国際比較研究」  <a href="http://wac-lab.com/culture.html">http://wac-lab.com/culture.html</a></p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	天童 睦子 (Mutsuko Tendo) (50367744)	宮城学院女子大学・一般教育部・教授  (31307)	
研究分担者	鑑屋 真理子 (一見真理子) (Mariko Abumiya) (20249907)	国立教育政策研究所・その他部局等・総括研究官  (62601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 均 (Takahashi Hitoshi)	北海道教育大学旭川校・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 東アジアの家庭教育に見る文化伝達と家族戦略の変容	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 東アジア地域における家庭教育と規範的文化の伝達の諸相 各地域のケーススタディをふまえて Family Education and Transmission of Normative Culture in East Asia: Based on Some Case Studies	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際ワークショップ・家庭教育の国際比較研究	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際ラウンドテーブル・東アジアにおける家庭教育	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
	中国	北京師範大学	北京師範大学珠海校	
韓国	明知短期大学			
その他の国・地域	台湾・中国文化大学	台湾・実践大学		